

0320

日本美術史

2 単位（通信授業 2 単位）

玉蟲敏子教授、坂本明子講師

授業の概要と目標

生活の中で根付き、育まれてきた日本の造形の歴史を学びます。まず絵画作品を中心に学習し、そこから更に、彫刻や工芸にも視野を広げてほしいと思います。

造形作品には常にそれぞれ固有の価値があると共に、製作者の存在や受容者の意識、社会的な機能・用途があり、更にそれを生み出した時代的、文化的な背景をめぐる問題があります。複数の視点から作品をじっくりみつめ、日本の造形文化を深く理解して頂きたいと思います。加えて学習の過程で感じた事柄などを生かし、受講者の視点がレポートなどの文中にも積極的に盛り込まれることを期待します。

課題の概要

○通信授業課題 1

12 世紀のやまと絵の技法を伝える「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」の 2 点を比較し、文化的背景などに留意しながら、それぞれの表現上の特色を述べなさい。

○通信授業課題 2

江戸時代の庶民文化の華とも称される浮世絵、その中から任意の一名を選び、作品を挙げて特質を論じなさい。なお肉筆画と版画の役割、技法、時代背景、国際交流などの観点を理解した上で課題を進めること。

*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書は、第 1 章「生活の造形」、第 2 章「宗教の造形」、第 3 章「作家の造形」の項目順に掲載されています。教科書全体を熟読してまず流れを把握し、該当する作品を丁寧に鑑賞した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。

第 1 部 生活の造形

第 1 章 狩猟民族の造形 第 2 章 農耕民の造形 第 3 章 王族の造形 第 4 章 公家の造形
第 5 章 武家の造形 第 6 章 町衆の造形 第 7 章 民衆の造形

第 2 部 宗教の造形

第 1 章 原始信仰の造形 第 2 章 神道の造形 第 3 章 顕教の造形 第 4 章 密教の造形
第 5 章 浄土教の造形 第 6 章 禅の造形

第 3 部 作家の造形－美術家の系譜－

第 1 章 画家 第 2 章 書家 第 3 章 彫刻家と工芸家 第 4 章 茶匠と花匠

成績評価の方法

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出题します（記述式）。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1～3 年次に履修することが望ましい。

教材等

教科書：水尾比呂志著『日本造形史 用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

その他

まずは教科書や関連図書の図版などを丁寧に鑑賞し、作品の特徴を感じ取りましょう。また各種展覧会にも足を運ぶなど、日頃から作品に触れる機会を積極的にもって下さい。作品に親しみ、日本美術の特質を広い視野からとらえて欲しいと思います。

また通信課題 1、2 は主に第 1 部と第 3 部に関連する内容となりますが、教科書全体を熟読して流れを把握した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。更に参考文献なども適宜参照し、課題に関する知識を深めましょう。